

センター長挨拶



センター長
山内 章

農学国際教育協力研究センターは、農学領域の開発問題を実践的に解決する人づくり協力をリードする拠点となることを目指し、1999年4月、名古屋大学に設立されました。その後、大学の法人化等を経て、当研究センターは、研究活動の財政的基盤を積極的に外部資金にも求め、研究・教育活動を推進してきています。特に、名古屋大学大学院生命農学研究科、生物機能開発利用研究センターや学内の他研究科、さらには関係諸機関とのネットワーク化を通じた他大学との連携による基礎研究及び海外のフィールド調査研究を強化し、その過程で国内外の人材養成を重視しつつ、その出口を現場の問題の解決に資することを明確に見据えた成果を追求しています。また農学国際協力の研究成果の公表の場のひとつとして、学術誌「農学国際協力」を発行し、農学国際協力学の創設に努めています。関係各位の積極的なご支援やセンターの活動に対するご参画をお願い申し上げます。

設立の背景

開発途上国では、環境破壊、農業生産の低迷、貧困など多くの問題が依然として地球規模で取り組む課題となっています。この課題の解決には、社会経済的影響、自然の有効利用、自然環境との調和などに配慮した適正な農業技術の開発やそれにあたる我が国及び開発途上国の人材育成が必要です。文部省（現、「文部科学省」）は、1996年6月、国際教育協力を通じた国際貢献、大学等教育機関における教育協力の位置づけと主体的組織的対応の重要性、事業間・教育機関間連携による効果的な教育協力の推進など新たな政策を表明しました。農学国際教育協力研究センターは、この政策実現のため、文部省の指導のもと、1999年4月、農学分野における全国の拠点として名古屋大学に設立されました。当センターは、我が国の農学系大学等の知力を結集し、学際分野の学問を統合して、開発途上国における農学領域の諸問題の解決に貢献するとともに、そのための国内外の人材の育成を行っています。

ビジョン、ミッション、オブジェクティブ

◆ ビジョン ◆

農学領域の開発問題を実践的に解決する人づくり協力をリードする拠点となる。

◆ ミッション ◆

- <教育・人材育成> 開発途上国が直面している農学領域の諸問題を解決するための国内外の人材育成に貢献する。
- <研究> 学際領域の学問を統合し開発途上国における農学領域の諸問題の解決に貢献する。
- <ネットワーク形成> 国際教育協力のための国内外の農学領域教育研究機関ネットワークの形成とその活用にご貢献する。

◆ オブジェクティブ ◆

<プロジェクト開発研究領域>

プロジェクト開発・評価手法の研究

<協力ネットワーク開発研究領域>

国内外の研究教育機関ネットワークの
開発・運用手法の研究

- 開発途上国の農業教育、農業・農村開発ニーズの特定と適正農業技術の開発により問題解決に貢献する。
- 農学領域に関する国際協力事業の調査、分析、評価を行う。
- 国内農学系大学等の知的・人的資産を利用してニーズに対応した教育協力を行う。
- 農学領域の国際協力に関わる国内外の人材育成とそのための研修を行う。